

平成29年度第3回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成29年12月21日(木)
 - 2 開催場所 市役所A棟2階全員協議会室
 - 3 会議時間 午後1時～午後2時50分
 - 4 出席委員 伊藤宣良、禪野葵、永田徳一(高島達 代理)、寺下利宏、堂端誠作、松原勝久、井野慎吾(森本太郎 代理)、屋敷夕貴、猶明孝信、米田良憲、糸秋男、田中英雄、山口新輔、小伏脇健郎、圓山留美 計15名
 - 5 欠席委員 村江省三、岩崎章夫、濱谷英俊、釣賀節子、本川和枝
 - 6 市出席者 林正之(市長)、前辻秋男(副市長)、山本晶(教育長)、藤澤一興(市長政策・都市経営戦略部長)、高橋正明(総務部長)、山口優(まちづくり推進部長)、草山利彦(市民部長)、表良広(建設農林水産部長)、荻野直樹(防災・危機管理監)、荒井市郎(教育次長)、川崎保広(消防長)、出戸勝教(企画政策課長)、川淵宏朗(総務課長)、京田武彦(財務課長)ほか
 - 7 傍聴者 1名
 - 8 案 件 (1) 配布資料の説明
(2) 質疑応答、意見交換
- <協議資料> ・(仮称)氷見市行政改革プラン(案)
・氷見市中長期財政見通し
- 9 発言内容 別紙のとおり

発 言 内 容

会長

ただいまから、平成 29 年度第 3 回氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。

委員各位には、年末のお忙しいなか、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

今年も少なくなりました。

振り返ってみますと、まず島根県の豪雪や、兵庫県の水害、10月には台風21号による水害など災害の多い年であったと思います。その中でも当市では、豪雨や台風等による大きな被害もなく、喜んでいるところがあります。

さて、本日は、前回会議での委員各位のご意見を踏まえ、新たな行政プランの基本計画（案）が示されました。

議論を深めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

なお、本日の会議は、2時間程度を予定しております。

最初に、市長からご挨拶をいただきます。

林市長

皆さん、本日は年末の大変お忙しいなか、第3回行政改革推進市民懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

10月に開催しました懇話会におきましては「中長期の財政見直し」、「職員数」、そして「基本計画（案）の概要について」、ご説明させていただき、ご議論をいただいたところでもあります。

本日の懇話会では、皆様からいただきましたご意見等を反映してとりまとめた（仮称）氷見市行政改革プランの基本計画（案）について説明させていただきます。

現在、本市では、グランドデザインの検討を進めております。

本日も午前中、第3回の委員会がございまして、共通の委員の皆様には、午前、午後とご出席いただき、ありがとうございます。

午前中の委員会では、まずは市街地が元気になることが大事だということで、旧市役所や市民病院跡地といった4つの公共空地を活用して、氷見駅から番屋街までの区間の市街地の全体像をどのような形にして住んでいくのか、そして市外から訪れた人が、氷見のまちを歩いてもらって、氷見のまちが元気となるような検討を進めております。その中でも、特に市民の皆様からは、早く新しい文化施設を創って欲しいとのご意見も出されておりまして、今日の委員会でも、500席の案と800席の案の2案を提出しましたが、長期的な財政見直しを踏まえるようとのご意見もいただきましたし、初期投資が大切とのご意見や、ランニングコストにもご意見

をいただきました。しっかりとした見通しを持って進めていきたいと思っています。そのような中、この行政改革プランを作成していることではありますが、氷見市に明るい展望と、新たな活力をもたらすことができるようしっかりとした行財政運営も行ってまいりますので、委員各位におかれましては、忌憚のないご意見を頂戴いたしますとともに、お力添えを賜りますよう申し上げます次第です。

今年の残り少なくなり、あと10日で新しい年を迎えます。

いろんな課題の道筋をつけて行きたいと思います。

新しい年が委員の皆様にとって、そして氷見市にとって輝かしい年となるようご祈念申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞ、よろしく願います。

会長

ありがとうございました。

市長におかれましては、所要のため、これにて退席されます。

(市長退席)

次に委員をご紹介させていただきます。

森本漁業協同組合代表理事組合長の代理として井野様に、高嶋社会福祉協議会会長の代理として永田様にご出席いただいております。

なお、村江委員、岩崎委員、浜谷委員、釣賀委員、本川委員につきましては欠席のご連絡をいただいております。

協議案件に入ります前に、前回の会議の振り返りを行いたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

総務課長

(「前回議事録」の説明)

会長

それでは、協議案件に入りたいと思いますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要点を、委員名を伏せて公表したいと思いますのでご了承よろしくをお願いします。

議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いしたいと思います。

本日の協議案件は、新たな行政改革プランの基本計画(案)についての1件です。

なお、この市民懇話会では、市の提案に対し、これまで議論も深めてきたところであり、市長へ提言書を提出する形ではなく、市当局からの提案

に対し、意見を述べ、議論を尽くすことでプランに反映させることとしたいと思っておりますので、委員各位にはよろしくお願いいたします。

総務課長 (「(仮称)氷見市行政改革プラン」の説明)

会長 それでは、ただいまの説明に対する質疑及び意見交換に入ります。
ご発言をお願いします。

委員 資料18ページの高岡市との消防広域化について、相手がいることではありますが、具体的にどういったことに取り組んでおられるのか。

消防長 高岡市への事務委託を勉強会の結果として、市当局、議会に報告しております。時期については未定であります。

委員 資料19ページの時間外勤務時間数の削減目標について、平成30年度が全職員300時間以内となって、平成31年度以降が平均で154時間となっている理由は。

総務部長 組合との36協定を越え突出して時間外勤務をしている職員がいるので、まずは、業務の効率化や適正配置等により、そういった職員を発生させないとの考えです。
時間外勤務の平均時間数については、平成28年度の171時間のものを平成31年度以降は10%減とすると154時間となることを示したものです。

委員 つまり、30年度は突出した長時間の人の時間を落とす、31年度からは、なだらかにいくということですね。

総務部長 そのとおりです。

委員 中長期財政見通しについて、大型投資を見込んでいるのはわかるが、それ以外に経費がかかりそうなもの例えば上下水道の老朽化対策等、そういった他のものがあるのか。
消費税の配分方法が変わった場合に氷見にとってプラスとなるのか、マイナスとなるのか。

総務部長

中長期財政見通しでは、例えば学校給食センターが老朽化しており急いで整備が必要であることや、これは市のグランドデザインにも該当しますが、教育文化センターの耐震化が必要であること、病院においては「がんセンター」、上下水道については人口減少を見据え、過去に整備したものは当時の人口に合わせた規格になっているため、これからは人口規模に合わせたダウンサイジング、そして長寿命化の経費を見込んでいます。

公共施設においても新たなものを造る以上は、既存の施設であれば、例えば新文化施設の場合ですと、公民館機能を入れるのであれば、そういったものを集約する、カルチャーセンター的なものをそこに集約する、そうした見直しを進めていく必要がある。

消費税につきましては、今、配分方式について、もっと地方に手厚くということで事業者割のなくなる見直しが行われています。そうしますと氷見市は人口割合が高くなるので手厚く配分されることとなります。

ただ、残念ながら、交付税の算定にあたり基準財政収入額というものがあり、消費税で収入が増えますと、交付税を減らすということがあり、基本的には全体の収入は変わらないと思います。

国が目指しているのは交付税の不交付団体の東京都の税収を地方に振り分けることによって、国の負担を軽くすることにあると思います。

委員

資料10ページの数値目標の収支改善額ですが、下の表を見ても平成33年度末までの4年間で4億円、平成39年度末の10年間で10億円と収支改善額を設定した理由がわからないので、説明願いたい。

総務部長

下表は平成35年度をピークに歳入と歳出の収支差引額が赤字となっていることを示しています。このことにより平成39年度末には市の貯金である財政調整基金が4億円になるとの見通しを前回説明させていただきました。

少なくとも標準財政規模の10%を常に持ち合わせていなければ将来にわたって健全な行財政運営を維持していくことはできないとの考えから、少なくとも4億円だったものを10億円上乗せできるように、マイナス幅を圧縮したいとの考えで提示させていただいた。

それを具体化するプランについては、現在作成中であり、次回説明させていただきます。

委員

今後4年間の計画だが、氷見市の過去の歴史の推移や、今の氷見市はどのような位置にあるのか。そういう総括はどうか。歴史の中で現在の氷見市がどうか。それによって氷見市のグランドデザインを描くことができる。

氷見市の特徴、氷見市の長所や短所の視点を入れる、大きな時間の流れの中で、今後の氷見市はどういう方向に行くのかなというものが、この中では明確になっていないように思う。そういった視点を入れたらどうか。そうすれば市民の方や、高校生、中学生などにも理解できるのではないか。

もう一つは、現在の空間的な氷見市の立地、位置をどのように捉えるのかという視点が反映されていく必要があるのかと思う。例えば氷見市は高齢化率は高いし、リハビリ、認知症、交通事故にあった人とかのリハビリ施設は呉東の方はあるが、呉西の方にはなくて難民化している状況にある。高齢化の問題のなかにユニバーサルデザインを広めることによる成功事例もある。地道で時間のかかる市民ボランティアを含めた、そういった要素を組み込んでいただけないか。

市長政策・都市経営戦略部長

まちづくり全般に関する意見と承りました。歴史を踏まえてとのことですが、大変難しいことではあります。第8次総合計画後期基本計画の審議会にて、そういった視点を取り入れた形で総合計画に反映できるかどうか検討してまいりたいと思います。

委員

10年間の収支見通しですが、特に交付税ですが、今後10年後を見込むのは至難の業だと思います。平成29年度の63億3千百万円が平成39年度は57億3千8百万円で5億9千3百万円の減ですが、平成27年度が68億8千7百万円だったのが、2年間で、平成29年度は63億3千百万円で5億5千6百万円となった。

通常、予算が固く見込むものだが、平成29年度の63億3千百万円は予算割れをしている。財政当局が予想外の減収となった。平成39年度の交付税は約束されたものではなくて小泉純一郎のような総理大臣が出てくれば、あっという間に交付税は減らされる。平成30年度から33年度は基金がたくさんあるので心配はないと思いますが常に緊張感をもってやっていただきたい。

2点目は数値目標について、例えば11ページの現年度の市税収納率の数値目標は今のプランと同じく98.5%以上ですが、平成28年度の実績は98.9%です。現状維持でも98.9%です。目標が98.5%だと目標を落とすということになるのでは。98.5%だと目指す目標ではなく最低基準になるのではないか。50億円の98.5%まで(99.0%から)0.5%落とすと約2千5百万円落とすことになる。通常であれば2千5百万円の税収を落とすというのは考えられない。例えば100人の生徒がいて10番の成績ののだとしたら5番が目標ならわかるんですが、20番を目指すというのは目標になりますか。

経常収支比率の目標数値ですが、80 から 90(未満)まで幅広い。現状 86.6%ですから 80%というのにはあり得ない。国の方で算定方式が変更され下水道の繰出金の一部について算入されることになったことが原因ですが、言いたいのは、目標というの、現状より上を目指すことであって、行革プランの目標数値を最低基準というなら、はいわかりましたと言いますが。委員の皆さんはどう思われますか？

それからもう一点だけ、今から正規職員が減って、臨時職員がどんどん減ってきますが例えば氷見市のパート賃金の例で言いますと、かつて七尾市長のときは 800 円だった。民間がいくら出しているかと言われ市役所が高かったもので 750 円に落として経緯がある。堂故市政が十何年間ずっと 750 円だった。ようやく当局が 750 円を上げました。これは何故かという最低賃金があがったわけです。国は 1000 円とする政策目標がある。市役所でも昨年は 750 円から 780 円に 4%あげた。今 810 円ですよ 4%あげた。2年間で 8%程度あげている。これは国の政策として 1000 円を目指してあげていくんでないかなと思います。このプランは、プランで想定していません。臨時職員の給与もあがっていくということを頭に入れておいて欲しい。

総務部長

地方交付税の見直しについてはおっしゃるとおりです。中々見通すのは難しい。国はマクロの視点で国全体のことは考えるのですが、一自治体はどうなるかは考えていません。予算割れをしたのも、予算割れと言っても臨時財政対策債を抱えるとそんなに大きな金額ではないですが、65才以上の高齢者人口、75才以上の高齢者人口が増えているので、その分のニーズがくんでもらえると思っていた。そうしたら、国平均で10数パーセント増えている。氷見市は数パーセントしか増えていない。10何パーセント増えたところに手当てをしなければいけないので、一定の割合以上伸びたところには伸ばすけれども、それ以下は下がるという、高齢者の人口は増えているのに交付税は下がるという今日そういった特殊な事情もありまして予算割れになりました。今後も制度の細かな改革が出てくると思いますが、交付税総額については人口減少に沿って下がっていくことを容認せざるを得ないと思っています。この金額は大型投資の過疎債を充当したことによる元利償還金の7割の跳ね返し分は入っていますので交付税総額はそんなに減ってないということもご理解いただきたいと思います。これからは交付税の額の精査についてしっかりやっていきたいと思えます。

市税の現年度収納率につきましては、おっしゃるとおり 98.9%のものが、98.5%ということでご指摘のとおりです。先程申し上げた収支4億円

以上の改善のなかでは目標は 99%ぐらいは設定したいと思っております。数値目標は連動すべきと思っております。

それから職員数につきましては、非正規職員については一定の労働条件が上がっていくだろうということで、加味させていただいていますが、パート賃金が 1000 円まで上げることは想定しておりません。そこは支出が増える要素になるかなと思います。

ご指摘ありがとうございます。

委員

1 ページを読んで国の制度に左右される、人口にも左右される、いろんな変動要因のなか、10年間を見通すのは他の委員が言われたように大変難しいと思うんです。大切なのはプロセス、常に毎年度、中長期財政見直しを見直す、そして行革懇話会に意見を求める、常に我々のところでは、3年後、3年後とローリングプランでいくわけですが、やっぱりいろんな環境変化の中で3年間、市役所だと市長の任期は4年ですがもっと中長期的に10年、可能な限り見通して、そして政策的なことは市長、議会が判断する、財政の健全化を図るのが大切だと思います。私は公益代表委員ですからそれだけは是非意見として言いたい。

行政は借入もできますよと、借入金収入で、借入金を返したら支出なんですよ。どうしてもそうした規律を持っていないと放漫になる可能性がある。財務規律というものが立てられている。我々金融機関も自己資本比率等でタガがはめられている。ですから、そういった風にされたらいいというのが私の意見です。

委員

過疎債があるから交付税がそれほど減らないという、国の方の財政は際どいところにきているので、地方についても交付税が減っていくかもしれない。氷見市は過疎債があるから他の市町村より有利かもしれませんが。全般的に厳しい話もあるかもしれない。それは私も分かりませんが……。そうゆう恐れもあるということです。

先程、他の委員がおっしゃったように安全策を取る必要があるのではないかと思います。そういう視点から見ますと18ページの職員数の推移の表ですが、平成29年度は522人ですけれども中長期財政見通しの2ページの一番下の欄に国勢調査人口は平成29年度は47,992人、平成39年度は43,215人という予想値が出ています。平成29年度の職員数522人に、43,215人(平成39年度人口)を、47,992人(平成29年度人口)を割ったものを掛けると468人(正確には470人)となります。それを今、計画ですと500人になっていますので、差が32人(30人)に一般的になると思うのですが、ここは468人(470人)が一つの目安かと思う。32人

(30人)も違う、どうして減らすのか、市民サービスを減らすのか、そういうことも簡単に出来ないでしょうし、役割がないとボケがちとなってしまおうと言うことで、いろいろ責任あることをやってもらう、有償ボランティアというのもありますし、大幅に468人(470人)とかでなくて400人ぐらいでやっちゃおうとか、この計画から100人少なくして、そのかわりボランティアを300人にしてしまおうとか、トータルで人件費が大幅に下がるということのを他の市町村でそういう成功例があるかどうかは知りませんが、もしあれば参考にさせていただいて、なければ氷見市がそういう形で取り組んでいく。多分、外国ではそういった例がいろいろあるかと思えますので。そういったことを抜本的に取り組んでいかないと国が非常にあぶない状況である、シグナルが出ていてもそれを見ないフリをするのはどうなのかと思えます。市長が先頭に市民全員が協力して、市の形、まちの形を提案していくチャンスではないかと思えます。

総務部長

これまで平成15年度に氷見市は単独市制を選択して以来、「行財政健全化緊急プログラム」「集中改革プラン」を2度にわたって、ずっと行革の取組みということで、そこでのターゲットは常に正規職員数でやってまいりました。その結果、その正規職員数が全国の類似の団体に比べると、行政部門では、正規・非正規を合わせると81人少ない状態にあります。先程、職員の時間外勤務時間数もありましたが、非管理職で300時間を越えるとの話しでしたが、管理職をみると更に、もっとひどい状態です。基本的には行政が抱えている事務を減らすことが大切と思っているんですけども、現在の長時間労働の実態を4年間の間になんとか働き方というものも見直しつつ、業務量全体を圧縮していきたい。その上で、将来的には地域づくり協議会という形で地域内での分権という形を進めていきたい。行政が今まで担っていた部分はお金は出しまするので、地域で行っていただけませんか、あるいは、民間で担っていただける部分があれば、極力、公の部分のスリム化を図っていきたいと思えます。

まだまだ見通しが甘いというのは確かでございます。国が今大変な財政危機に瀕していますので、国が今、どういう状況になるかによって、全国の自治体を維持することができない状態になりますので、極力、安全な形にスリム化を図っていくためには収支をもっともっと改善していかなければならない。そのためには人件費はこれからも圧縮していく方向にしなければならぬと思っておりますので、なんとか具体化できる形で、一気にできませんが、段階的に進めていきたいと思えます。

委員

7ページの下にあります公共施設マネジメントの推進ですが、富山市、

高岡市も公共施設が多いということで、最近見直しをするということで、譲渡、統合であったり一生懸命です。そこであえて氷見市が新しいものをつくるということで大変な努力が必要かと思います。何をつくるかによって金額が変わってきますし、いろんな収支もかわってくるわけですが、それをこちらで議論するわけにはいかないんですけど、もっと厳しい目で見ていただいて、今あるものを寄附するとか、閉鎖するとかいろんな方法があるかと思います。そうしたものを一回見直していただいて新しいものをつくっていただきたいというのが一つです。

あと、まちづくりにあります「まんがロード」ですけれど、今、藤子先生がご存命ですのであれですけど、例えば何かあった際に今後どうするのか。実際、10日ほど前に水木ロードに行かれたときに、あの方が亡くなったときにすったもんだしたとも聞いています。その辺も含めて、藤子先生が万が一ということになればどうするのかということ。藤子プロに現状いくら払っている、或いは、先生が亡くなったときにどうするかということも現段階でつめていただくのがいいのではないかと思います。

まちづくり推進部長

4つの公共空地については、ランドデザイン検討委員会で検討しておりますが、どういうふうやっていくかはこれから検討させていただきまして、財政計画とも整合性をとらせていただきたいと思っています。

また、「まんがロード」につきましては、先日、市長が議会答弁においてまんがのまちづくりということで、部をまたいだプロジェクトチームをつくって推進していくといくことで、そのチームをつくって話し合いを始めたところです。藤子スタジオ、小学館プロダクションとの話し合いは進まない、進まないわけですが、現在、藤子プロダクションとの契約（契約の金額は手元にないのでお答えできませんが）はしっかり行っており、キャラクターを使うときのライセンス料はしっかり決まっていますので、今後は変更があるかもしれませんが、今は大丈夫だと考えています。

委員

今回の基本計画の中に、広域行政の推進を入れたこと、これは私は賛成です。先程、消防の広域化の話で質問しましたがけれども、消防は今回大きなトラブルを起こしておりまして、消防、他もそうですけれども、同じところにずっと一緒だと、どうしてもタコツボのようになりまして、風通しが悪くなる。いろんな問題が起こるのは、よくあることだと思う。そういうことの解消になると思う。他の市町村と連携して交流を行うということで、何か突破口を見いだすということを考えて方がいいのではないかと。氷見市は先程言ったように単独市制を平成の大合併の際に選択し、私も心情的にその方がいいと思った訳ですが財政的に厳しくなれば、隣の兄貴分

の高岡市に抱きつけば良いと思っていましたが、今、高岡市は大変なことになっていますけど、やっぱり、広域化というのはウィンウィンの関係で両方良くなるのが求められること、そういうところを追求していく必要があると思います。これを入れたことは実現できることがあったら是非取り組んで欲しいと思います。

市長政策・都市経営戦略部長

今、広域化のご提案もありました。先程、総務部長の方からも申し上げましたように、市町村合併を行わず単独市制を選択という方針を平成15年にしております。流れといたしましては呉西圏域6市で連携して、例えば観光であるとか、協力してやれるものを進めていくというのが一昨年あたりから出てきております。また人的交流につきましても、現在、高岡市と氷見市でお互い職員を出し合い、交流を進めておりまして、ちょっと違うやり方をお互いに学んでおります。呉西6市を中心としまして、広域圏は3市で連携していますが、連携して進めていきたいと思っています。

委員

呉西6市の連携ですが、6市長も行っており、議会もあるはずですが、それと自治会も昨年度会議を開催しておりまして、今年度はまだ開催していないのですが、機会があればと思っています。

委員

情報公開について質問させていただきたい。8ページに自治体クラウドの導入に向けた調査研究ということで、他の市町村とのシステムの共同利用であります。このあたりのことについて少し伺いたいと思いますが、このクラウドでどこまでの情報を載せて実際に公開していこうかと考えているのかお聞かせ願いたい。

総務部長

自治体クラウドと表記しておりますのは、あくまで自治体の基幹システム、住民情報でありますとか、内部情報でありますとか、ソフト部分、OSとかですね、そういったものとハードを単一市町村で持たずに皆で持ち合わせることで経費をより効率化できるということで、かつて氷見市もそこに参加することを検討していたのですが、各市のシステム更新時期がなかなか合わなかった。一回入れますと2億円、3億円という多額なシステムなものですから、そういうクラウドに参加することを見送ったのですが、そういう更新の時期を見極めながら、これからはマイナンバーというものも入ってまいりましたし、情報が緊密に連携できるように目指していくという意味合いのものです。

委員

自治体クラウドについては市民に、外部に公開することはないと言うこ

とですね。

総務部長 これはあくまで自治体同士の閉鎖的な話しであります。

委員 他の自治体と共同で使った場合に容量は大丈夫なのか。それに対する費用対効果は、可能なのかどうか。

総務部長 容量的には問題ないと思います。ただし更新の時期を合わせていかないと、通常は5年間セキュリティの問題とかありますし、保守の関係でだいたい5年位が目安なんですけれども、氷見市もちょうどハードの入れ替えの時期に来ていますので、今すぐにクラウドに参加できるかとなるとできないんですけど、次回の更新時期を関係団体で話し合うことでうまく調整し、お互いが損をすること、そうでないところをうまく平準化する形で協議を進めていくことができればと思っておりますが、同じタイミングに入るのは難しいかなと思っております。

委員 クラウドを使った場合のセキュリティ面について、最近いろいろなところで問題が起きているんですが、クラウドを使った場合、どこまで完璧なものになっているか教えてください。

総務部長 セキュリティは最も注意を払わなくてはならないところです。今、県内において基幹システムを運用しているのは全てインテックです。かつて氷見市は違う会社だったんですが、今は全部インテックです。そういう意味で、もしクラウドになれば、そういうシステムを管理していくのはインテックさんになるのかなと思います。もちろん提案いただいて費用対効果のようなことは行うのですが、現状においてはインテックさんが県内15市町村をそのような形で運用していますので、セキュリティはもっと強化されていくと思っておりますし、クラウドになったからと言って差はないのかなと思います。

委員 あともう一点伺いたいのは5ページにある行政情報の公開ということで、二次利用できる形で公開していこうと書いてあるのですが、よく情報というのは公開されているのを皆さんが知らなかったり、どう活用しているのかわからなかったりあると思うのですが、このあたりの取組みについてどう考えているのか教えてください。

総務部長 前回のプランのときもこういう話しがあったんですが、氷見市は進んで

いない状況です。例えば福井県鯖江市さんなんかでは、いろんな情報、例えば市内の公衆トイレがどこにあるかを出して、民間の方ではトイレの情報をもらったことによって仕事に結び付くというそういうサービスを自分たちで考えるという、そういう行政にとってはなんでもない情報なんですけれども民間の人にとってそれを利用することで、それが仕事になり、サービスを生み出すことだできる、そういうことがたくさんあるようです。氷見市はその辺の研究がまだまだ進んでいない。是非、住民の皆様の方からも個人情報にならない、公開することが何ら影響ないものであるならば、どんどん公開して行って、それを利用できる形にしたいと思いますので市民の皆様からも是非、こんな情報を公開して欲しいというものをいただければと良いなと思います。

委員

市民病院におけるがんセンターの整備とありますが、医療の質を維持しながら、医療費を適正化させることはできますか。

市民部長

市民病院のがんセンターについては、ペット CT とリニアックという放射線治療を行う医療機器の整備と建屋の整備をする計画です。県・国の方と病院事業債で整備することについて協議しているところであります。医療費の適正化については、すでに取り組んでおりまして、例えば特定検診の受診率をあげるために未受診者の受診勧奨をしたり、薬をジェネリックに切り換えたり、医療費の通知を行ったり、健康に関する記事を掲載したり、そうした取組みをしてなんとか医療費を抑制していきたいと思っています。

委員

氷見市中長期財政見通しを大変苦勞されてつくられたというのは分かるのですが、基金の減り方等を見ますと20年間の収支見通しをつくれるとしたら、もっと危機感を持たなければいけないような数字が出るんだろうなという風に思っております。第2回するときにもこういった意見があったかと思うんですけど、今、余力のあるときに将来に備えた投資、投資という言い方が正しいかどうか分かりませんが、要は、収入を増やす、若しくは10年以降、10年後に氷見市がどういう姿を目指されるのか、うまく言えませんが、見据えた対応も必要なのではないかと感じました。

総務部長

今ほど中長期財政見通し、2ページで、10年後に財政調整基金が4億円になるということで、その次はどうなるんですか、20年後は、このまま行ったら確実に資金ショートするようなことになると思いますので、そういった意味で先程言ったように、一つは数値目標においても10年後

に、この2ページの表の下から2行目に標準財政規模がありますが、これは大体、人口の規模とかによって、その市町村が標準的な行政を維持していくために必要な一般財源の額を示しております。この10%ぐらいを基金として持ち合わせるような目標を立てたいと思っています。そのためには少なくとも10年間で最低でも毎年1億円の収支改善をして行って、12億円以上の基金を残せるような状態にしていかななくてはならないと思っています。そしてそのためには収入を増やすとなりますと、なかなか、市民の皆様にも耳の痛い話、例えば公共料金の値上げみたいな話も出てくるやもしれません。いろいろな検討の場もありますし、また、活用されていない土地や建物についても有効活用して、民間の方に売却をするとか、そういう収入を増やす方法、もちろん先程も言うておりました市税の収納率を上げていく、又は収入面だけではなくてサービス水準を切り下げるそういうことも、これからの人口減少を見据えたときには、耳の痛いところ、辛いところも取り組んでいかなければ、自治体の運営はうまく行かないと思いますので、今は4年間の計画ではありますが、今回は4年間でまず、何をすべきかを示させていただければと思っています。

委員

ありがとうございます。私が言いたかったのは市民の負担を増やすというのではなくて、氷見市として別の形で、何かまちの魅力を高めて、いわゆる収入増につながる何かがないかなという、そういう趣旨でございます。

企画政策課長

委員には総合計画でもお世話になっております。総合計画におきましてもそのような話しを考えておきまして、やはり経済的に回るような形をどう作っていくか、そして資金を外部からどう入れて、地域経済の中で回して、地域の活力、そして皆さんが経済的にも豊かになるようにという風に考えております。委員からは商店街のあり方とか、企業誘致の考え方とか、いろいろご意見をいただいております。それについては総合計画の方でも反映していきたいと思っています。

委員

初めてですけど、資料を見て、率直に感じるのは、非常に数字の目標、例えば財政の見通しなども含めて、先程から見ていて非常に厳しい、はっきりと言えるのは、中々市がやっている事業をこのままやっていくのは無理だというのは、はっきり見えるんだと思うんですね。中を見ると、あまりそういうものが見えない、あまり計り知れない部分だと思っておりますが、市の行っている事業の何パーセント位が立てている計画の中で、できないであろうといところまで、ある程度触れられるではないかと思うんですね。

ある程度少し言及しておかないと、見通しも中々、これだけを見るだけでは勝算もないような見通しに見えてしまうので、市のやっている中でどれぐらい事務事業の中でもこれぐらいは抑えなければいけないと少し言及してもいいのではないかなと言うのが正直なところではあります。

まちづくり推進部長

貴重なご意見、ありがとうございます。この会議以外に、公共施設の再編計画というものを立てさせていただいています。その再編計画と行革プランは連動しております。その再編計画の案を作成しておりますので、お示ししたいと考えております。それはまた、次回の市民懇話会でできるかどうかこちらで準備を進めていますので、よろしく願いいたします。

委員

たくさん資料を出していただいているんですが、細部のところでわからないところもたくさんありますし、役所の仕事、市民の皆さんが、本当に詳しくは分かりません。どの辺を、前回も言いましたけれど、アウトソーシングできるのか、内部でわからないこともあるかも知れませんが、そういった資料も付けていただかないと、行革の一步も中々前に進まないのではと思います。一時、コンパクトシティの話もあったと思います。あの氷見は、これだけ地面が広くて、人口が少ない、かと言って山手を捨てるわけにもいかないということから中々進んでおりませんでしたけど、氷見型のコンパクトシティというのもあると思います。まあ漠然となんですけれども、集約できる場所とか、今ほどの市民サービスの方も、統廃合しながらという話もありましたけれども、もっと新しい考えを入れていった方が、これだと分からない話があるような気がしています。あと、先程、他の委員からもありましてけれども、厳しい状況は本当に分かりません。今後とも考えていかなければいけないことも分かるんですが、例えば沖縄あたりですと、平成14年度ぐらいの観光収入がちょうど倍になっていまして、もうまもなく2兆円ぐらいの観光収入があります。沖縄もそこまで行くと思っていなかったと思いますし、日本全体の1千万人の訪日外国人が既に東京オリンピックを見据えて5千万人、6千万人というような試算が出ています。沖縄の一人あたりの観光収入が7万円から8万円という話も聞き及んでいますから、氷見はやっぱり戦略的に考えて観光客をもっとより、観光協会がですね、市の観光課と本当に一緒になって取組みながら、観光収入を増やして、それを市民の皆さんにビッグサービスできるような形に転換できればいいなと私は希望的に思いますし、私はそういう戦略的なことを考えて、もっと観光収入を増やしていくことを是非もっと取り組んでもらえればうれしいなと思いますし、市民の皆さんも前向きに取り組むことに関しては、前向きに受け止めてくれるのではなかろうか

など漠然とですがそう思っています。

まちづくり推進部長

観光収入を増やす目標は当然掲げております。先日も台湾に行っていたきありがとうございます。これからはインバウンドもそうですし、先程申しましたまんがのまちづくりも観光の一部と捉えています。いろんな場面、いろんな団体との付き合い、市町村等とも付き合いを大切にしていきたいと考えておりました、今後ともご協力をお願いしたいと考えています。よろしく願いいたします。

委員

過疎債の使い道を分かりやすく公表できないかとおもいますが、市だけで使うのか、あとは地域で何か意見があったらそれを補助するのか、教えていただきたい。

総務部長

過疎対策事業債、いわゆる借金でありまして、如何に過疎地域から自立、脱却するために国が特別の財政手当をしましょうというものです。人口減少や少子化対策につながるそういう施策であれば、基本的に氷見市全域を過疎地域として取組むことができますので、ほぼ、なんにでも使えるものかなと思っています。

委員

先程、他の委員からもございました職員数について、総務部長から地域づくりについて、そういうところも一生懸命取り組んで人員の削減を図りたいとの説明がございました。地域づくり協議会という形で、今現在、私たち自治会も一生懸命、力を入れて各地区でやろうという形で進めているところでありまして。地域づくり協議会について皆さんに詳しく説明していただきたいのですがよろしいですか。

市長政策・都市経営戦略部長

地域づくり協議会につきましては、各地域でできることは、各地域でやっていたらこうという考えのものであります。これまでは、各地域は、自治会があって、婦人会があって、また老人会があって、青年団があるというように、バラバラで活動していたものを地域で一つで全てのことをやっていたらこう、組織の中に入っていて全部やっていたらこうという考えであります。市内21地区での地域づくりを目指しておりますが、現在、6地区で設けておられまして、準備会が2地区であります。今後は将来、ゆくゆくは、いろいろ市から交付金が出ています、福祉からの交付金、建設からの交付金、そんなようなものを地域に一括して、全地区に地域づくり協議会が出来た場合の後のことですが、地域に一括して交付して、地域で自由に使っていただくようなやり方も検討はしております。今後、市

といたしましてもできるだけ全21地区で地域づくり協議会を設立して
いただきたいということでありまして、それについての何らかの予算措置
ができないかということで、今、予算も審議中のございまして、それが決
まり次第、説明させていただきたいと思ひます。

会長

事務局から仮称としまして、氷見市行政改革プランという名称が示され
ました。前回は委員の皆さんに名称についての意見をお願いしたところ
ですが、今回、氷見市行政改革プランという名称にしたいと思ひますが、何
か意見がありませんか。

委員

他の市町村でも結構この名称を使っているのだから、いいのではないか。

会長

それでは、氷見市行政改革プランということで、案を取ってこれから使
っていきたく思ひます。よろしくお願ひします。
予定の時刻となりましたので、協議を終了します。
閉会にあたり、副市長から一言ごあいさつをいただきます。

前副市長

本日は、長時間にわたり、活発にご審議を賜り、厚くお礼を申し上げま
す。
ただ今のご議論により、基本計画がまとまったものと理解させていただ
きます。
これもひとえに、猶明会長をはじめ、委員の皆様が熱心に協議いただ
いたことの賜物と思ひています。
各位のご尽力に、心からお礼を申し上げます。
次回の会議では、この基本計画を反映した実施計画をお示しし、ご議論
いただき、その内容をしっかりと受け止めさせていただき、新たな行政改
革プランにつなげてまいりたいと思ひております。
各位には、今後とも、ご指導、ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ
申し上げます。
本日は誠にありがとうございました。

会長

委員の皆様には、長時間にわたり、熱心に議論いただき、ありがとうご
ざいました。
本日はこれをもって閉会いたします。お疲れさまでした。